

平成30年9月25日（火） 白川町 発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
企画課	企画係	鈴木 幸祐	白川町役場 内線 231 FAX 0574-72-1317

当日の連絡先：

おでかけしらかわ・ひがししらかわ 出発式等を開催します

白川町・東白川村では、平成28年4月の濃飛バス減便を受けて、地域・交通事業者・町村が一体となり、新たな公共交通の仕組みを創り上げてきました。いよいよ10月1日から新しい公共交通がスタートするにあたり、このたび下記のとおり、出発式を実施します。

記

- 1 日時 平成30年10月1日（月） 9：00～9：30
※雨天決行
- 2 場所 白川町町民会館付近
（白川町河岐阜1645番地） ※別添位置図参照
- 3 内容 (1) 開会あいさつ
(2) 関係者あいさつ（予定）
 - ・白川町長 横家 敏昭
 - ・東白川村長 今井 俊郎
 - ・名古屋大学 加藤 博和教授
 (3) テープカット・記念撮影
(4) バス・デマンド車両出発、見送り
※新路線「白川中央線」河岐阜通り 通過
(5) 解散
- 4 主催者 白川町、東白川村
- 5 その他 新しい公共交通の概要 別紙のとおり

【関連行事】「さよなら佐見線 68年間ありがとうイベント」

※佐見地区及び公共交通佐見部会では、68年間お世話になった濃飛バス佐見線に感謝の意味を込めて、「さよなら佐見線 68年間ありがとうイベント」を開催します。

1. 日時 平成30年9月28日（金）
2. 場所 白川町上佐見地内 佐見地区公民館周辺
3. 内容 写真展、寄せ書き、ボンネットバスの展示など
4. 主催 佐見地区公民館・公共交通佐見地域部会

〈バス〉

- S18年 4月 濃飛バス白川口営業所が開所し、乗り合いバス事業が開始
S40年 11月 濃飛バスが河岐に整備工場と職員合宿所を新設
S44年 路線バス維持のために公費補助を行う
S46年 12月 佐見小野から東白川神土への運行を廃止
S48年 7月 坂ノ東村君から金山への運行を廃止・白川口から上麻生への運行を廃止
S57年 6月 切井から恵那市中野方への運行を廃止
S58年 8月 白川高校へのバスの乗り入れを開始
S60年 5月 佐見線が廃止路線となる
S62年 2月 蘇原線と黒川線が廃止路線となる
S63年 4月 加子母線（現白川線）が廃止路線となる
※各路線の廃止を受け、町の自主運行バスとして濃飛バスの代替運行を決定する
※濃飛バスとの間に運行契約を結び、従来と同様の運行を継続する
H 6年 6月 町内路線バスの重要性を考える「バス対策協議会」を設置
H 6年 6月 自主運行バス総合補助金交付要綱を策定
H 6年 高齢者バス優待乗車事業を開始
H10年 保育園通園バス利用者、身体障がい者バス利用者に対しての助成を開始
H11年 高校生バス通学者の対する助成を開始
H19年 4月 美濃加茂市へ高校生通学支援バスを運行開始
H28年 1月 路線バスの運行見直しを受け、白川町地域公共交通会議を設置
H28年 6月 白川・東白川村地域公共交通協議会を設置
H28年 6月 第1回白川・東白川村地域公共交通協議会を開催（以後H30.8月まで9回開催）
H28年 9月 白川北地区で地域部会が設立（以後各地区で設立、5つの部会ができる）
H28年 12月 白川北地区でデマンドバスの実証運航開始（以後各地区で開始）
H29年 7月 夏休み小中学生 50円バスを運行
H30年 10月 新しい公共交通システム「おでかけ しらかわ」がスタート

〈鉄道〉

- T15年 3月 高山本線上麻生・白川口間開通（白川口駅開業）
S3年 3月 高山本線白川口・飛騨金山間開通（下油井、飛騨金山駅開業）
S29年 4月 準急「ひだ号」を名古屋・高山間で運転
S36年 10月 準急「ひだ号」の白川口駅停車が実現
S39年 10月 東海道新幹線東京・大阪間開通
S39年 9月 白川口駅に陸橋が完成
S44年 2月 下油井駅に陸橋が完成
S46年 5月 新茶サービス開始
S53年 10月 白川口駅に特急が停車するようになる
S60年 6月 下油井駅が無人駅に、農協が業務と併せて切符販売、改札を実施
S61年 4月 白川口駅開業 60周年を祝う
S62年 4月 国鉄が民営化され「JR 東海」と呼称されるようになる
H12年 2月 白川口駅、下油井駅、飛騨金山駅の管理を美濃太田駅が行うようになる
H24年 3月 白川口駅の無人化に伴い、町が切符販売、改札を受託。